

## 令和2年度における検討の総括

### 第2回(昨年12月)までの検討結果

- 最近の航空管制や航空機の技術革新を踏まえ、12の飛行方式を洗い出し、その論点整理と、海外事例調査の進め方について議論。

### 第3回(本年3月)における検討事項

- 12の飛行方式について、①羽田空港(多くの外国航空会社が就航する混雑空港)において多数の航空機が安全に運用できるか(対応機材、運用可能な気象条件、安全性評価時に参考にする基準の有無)、②騒音軽減効果があるか、という2つの観点を中心に、メリット・デメリットを整理。
- その結果を踏まえ、羽田空港への導入可能性がある複数の飛行方式に絞り込んだ上で、導入する場合の短期・中期・長期の具体的な課題について議論。

## 今後の検討の方向性

- 第3回検討会においてメリット・デメリットを整理のうえ絞り込んだ技術的選択肢(飛行方式)について、短期・中期・長期の課題への対応策の検討を行い、更なる絞り込みを行う。
- 絞り込んだ飛行方式について、基準策定(飛行経路設定に必要な基準、A・C滑走路への同時進入時の運用ルール)、安全性の評価(A・C滑走路への進入機同士の安全間隔確保等)、運航者との調整、騒音軽減効果の確認等、羽田空港への導入を見据えた検討・検証を行う。
- 出発・到着ともに、騒音軽減等に資する管制運用等を含めた総合的な方策を検討する。

※ 次回検討会は、第3回検討会において絞り込んだ飛行方式に関する課題への対応策の検討状況を踏まえ、開催予定。